



病床雜記

東條 八十吉

病床の私は、いろいろのばらばらな出来事と出逢ふことを考へる。不安や不確、瀧三子の子に私は感心や健康を失つてゐる考へなした。沈滞した磐城詩壇だが、次から次へと起る新しい出現として、けれども、希望としては一時私は期待する。俳句では渡も早く健康になつたこと、邊武門、鈴木欣子などが、そしてその他の不満もつと問題にされてゐる。それから枝葉だ。磐城の詩壇、俳壇、歌壇に對するいろいろの不満も、こゝから起るのではあるまいか？ 自分自身に病に對する自信のない時である。氣のあることに氣がつかなか、其處には誇張があり、紛飾の場合がありはしまいか。あり、妥協があり、凡庸詩壇、俳壇、歌壇をよる見にくいヨリシイが、詩壇、俳壇、歌壇をよる見にくいヨリシイが、詩壇、俳壇、歌壇をよる見にくいヨリシイが、

俳句 時 吟 華 生
（下）
今日も又地圖を掲げてニユース聴く
新聞をむきかへる様に讀みあひぬ
隠居等も野に出て銃後離れり
故郷を思ふと磐城慰問架
秋晴や櫻は高し慰問架

野麥社短歌會詠草

十日マルトモ

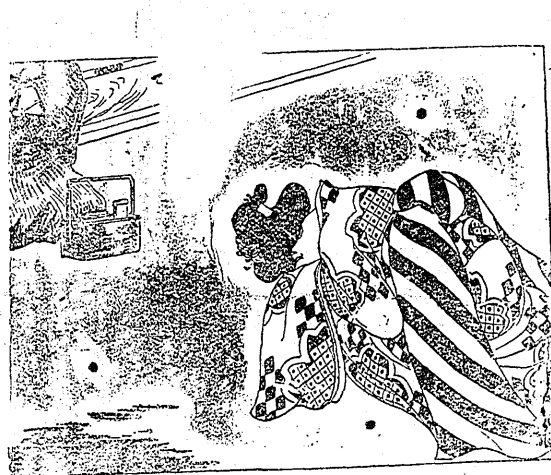
- 1〇 疲れたつ木株に憩ふ真澄なり木陰ゆとほる鶏の聲
- 1〇 近く夕立のあと一しきり庭木とくくく蟬のこゝろ充つ
- 2〇 山門の静けき松の木末より煩の聲澄み透るなり
- 〇 庭隅に日暮れ来て啼くくのは虫さきさききて日頃うるさし 箱崎 半 吾
- 2〇 片假名をうそら覺て聲高く涙み愛ぐしう繪本讀む吾子 赤井 謙 男

天気豫報

今晩は北の風雲雨
明日は北の風雲一時晴

悪い批評は出来なから、氏は少しも自分に恥ぢず、その作品がつまらなくなつてもついても、チャーターライオンに認めてゐる。所謂、證據倒れであつて、これでは作品確度の過不及な意見と云ふものがなさざる。と思ふ

聞王師陷宛平
才張何敢敵神兵
旅城空々萬里征
飲馬廬澤橋下水
長驅陌陌宛平城



初戀の石を投じたその男が、意外の権事を捲き起して、十手の城を避けるため、今昔兵衛の水車小屋に籠居してゐる。それも誰か皆んな自分からた、それを思ふと、矢も楯も堪らぬ、家名が何んだ、祖先が何んだ、女一生の運命を支配する初戀を犠牲にしてまで、丁字屋の家名を盛り返す責任は自分ない筈――

軍服・團服

熟練工が來ました
何卒御用命賜り度
平市南町七十一
高野洋服店
電話(呼)四八五番

平牛乳舎

第一質品
電話八六二番
平市・九品寺前

産科

午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平市田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

和洋

建築
家具
器具
製作販賣
製作販賣
製作販賣

片寄製作店

片寄製作店
電話四八四番

平製氷會

平製氷會
電話二二六番

魚丸

魚丸
電話二二六番

天板、ベニヤ板

天板、ベニヤ板
電話二二六番

羽織田村木商店

羽織田村木商店
電話二二六番

北川外科

北川外科
電話二二六番

吸入用酸素

吸入用酸素
電話二二六番

開内藥局

開内藥局
電話二二六番

病室

病室
電話二二六番

婦人科

婦人科
電話二二六番

安齊醫院

安齊醫院
電話二二六番

吉田眼科醫院

吉田眼科醫院
電話二二六番

